

令和4年度 事務事業評価

単位：千円

		第6次総合振興計画			款	2 総務費	課・係名		
基本目標		活力いっぱいの集落・村づくり	施策	村民と協働による村づくり	項	1 総務管理費	総務課		
					目	6 企画費	政策情報係		
事業通番	事業名	村づくり推進事業			予算額			決算額	
121602					当初予算額	増減額	予算現額		
事業目的	地域リーダーの養成、地域コミュニティ活動の促進に必要な事業を進め、第6次総合振興計画の基本構想である「これからの農村を生きる-みんなで楽しみをつくりだす村-」の実現を図る。	事業費	6,986	▲ 421	6,565	事業費	4,784		
		財源内訳	国庫支出金		0		財源内訳	国庫支出金	
			県支出金		0		財源内訳	県支出金	
			地方債	1,000	▲ 300	700	財源内訳	地方債	600
			その他	3,500	0	3,500	財源内訳	その他	3,500
		一般財源	2,486	▲ 121	2,365	財源内訳	一般財源	684	
事業の内容及び成果・今後の課題									
内容	事業費(円)	内容・成果			今後の課題				
協働のむらづくり推進事業	694,000	以下の5団体に補助金を交付 ①木島平自然学校 200,000円 ②常田さんの昔ばなし実行委員会 200,000円 ③木島平村健康づくりサポートチーム 184,000円 ④やまさき会 54,000円 ⑤ふるさとサロン 56,000円			公益性、発展性（目標と将来計画）、継続性（自立的な体制及び資金計画）が高い事業として、継続事業は5年までとしているが、その団体の同一事業が数年後にステップアップしたい場合にこの支援金を使えるようにするため、空白期間（3～5年）の設定を検討する必要がある。				
早稲田大学地域連携ワークショップ	99,680	R4テーマ「子育て世帯が住みたい田舎No1になるための施策を考えよう」 10人の学生が2チームに別れ、現地調査、住民へのインタビュー等を通じて、テーマに対して、個性的な提案を行った。なお、3年ぶりに現地調査を実施した。			提案内容の具現化及び参加者との継続的な関わりが課題。				
高校生・学生等支援事業	204,000	下高井農林高校が実施した2事業へ補助金を交付 ・地域活性化プロジェクト（ファームス作庭） 100,000円 地域活性化活動宿泊助成 104,000円 ・東京農業大学 12泊、ものづくり大学 14泊			下高井農林高校だけでなく飯山高校との連携も重要と考える。飯山市でも同様の補助があり、市町村間の共同実施等も考えられる。				

コミュニティ助成事業	3,500,000	祭具を整備や防災用品を調達する主な助成金になっている。新調した祭具や防災用品は、区内の活力の象徴となり得る。地域活力に即効性のあるきわめて有効な事業。 【実績】祭り用幟ポール（山口区）2,200,000円 投光器付発電機（南嶋区防災会）1,300,000円	近年、宝くじの売り上げ減少により財源が乏しく、採択が1事業の年もある。地域の活力維持に貢献する事業であるため順番決め等を公平に行い、適正な執行を期していく。
フラワーロード	72,526	・資材購入、菜の花粉碎作業、農機具レンタル代 ・花苗、肥料、ボランティアお茶等は北信建設事務所が負担した。	・村民との協働のむらづくりとしての事業であるが、参加者は年々減少傾向にある。
計画関係	68,300	・全国過疎連盟会費、全国ダム・発電協議会負担金	引き続き組織に加入し、各種計画の推進を図る。
総合戦略推進委員会	39,360	年2回開催（11/25、3/28） 第2期総合戦略について、効果検証を実施。 委員報酬31,200円 需用費8,160円	引き続き委員会を定期的に開催し、進捗管理を図る。 委員会の開催時期の変更の検討（3月→4月or5月）
その他	105,664	各種イベント消耗品他	
合計	4,783,530		

指標	目的達成に向けた具体的な取り組み					担当評価	評価の根拠・説明・考察
	単位	目標	実績	達成度			
	県元気づくり支援金の採択件数	件	3	4	133%		
	村づくり支援金の採択件数	件	5	5	100%		
評価委員評価							
公共性	B	総合評価 (妥当性)	B	早大地域連携ワークショップ、更なる実現性ある提案を願いたい。			
公平性	B						
有効性	B						
効率性	B						

令和4年度 事務事業評価

単位：千円

第6次総合振興計画				款	2	総務費	課・係名		
基本目標		農を基軸とした交流の村づくり	施策	農村環境を活用した産業の創出		項	1	総務管理費	総務課
			目			目	6	企画費	政策情報係
事業通番	121605	事業名	姉妹都市交流促進事業			予算額		決算額	
		事業目的	姉妹都市交流の更なる発展・深化のため、木島平村の歴史・生活・文化等を調布市民に広く知っていただくとともに、本村住民による調布市の理解増進も促進し、双方にとってより良い姉妹都市交流となるよう各種事業に取り組む。			当初予算額	増減額	予算現額	
			事業費	3,333	▲ 255	3,078	事業費	2,041	
			財源内訳				財源内訳		
			国庫支出金		0		国庫支出金		
			県支出金		0		県支出金		
			地方債		0		地方債		
			その他	40	0	40	その他	46	
			一般財源	3,293	▲ 255	3,038	一般財源	1,995	
事業の内容及び成果・今後の課題									
内容	事業費(円)	内容・成果		今後の課題					
姉妹都市交流事業	46,377	調布市農業まつりに併せて、い〜なか交流フェスタとして、抽選会と村の農業者紹介パネルの展示を実施。		参加イベントの見直しと新たな交流（人・場所）の検討。					
姉妹都市職員交流事業	191,100	・調布市の新人職員研修の実施（オンライン） ・村新人職員研修の実施（6人参加） コロナにより調布市部対抗スポーツ大会は中止。		担当課だけでなく、全庁的に交流ができる機会の造成。					
調布・木島平交流倶楽部	124,435	3年ぶりに総会を対面にて実施。 6月の春の田植えツアー、9月の秋の稲刈りツアーは、11月の晩秋りんご狩りツアーで延べ69人が来村し、村のファンづくりと草の根レベルの交流推進につながっている。		会員数の減少もあり新規会員の獲得が課題。特に若い世代への周知が不足している。					
調布市派遣職員	1,679,067	都市住民ニーズを把握するとともに、市役所との連携強化を図り、姉妹都市交流の更なる発展のため職員一人を交流推進員として調布市に派遣した。調布市とのパイプ役として必要な役割を担っている。							
合計	2,040,979								

指標	目的達成に向けた具体的な取り組み					単位	目標	実績	達成度	担当評価	評価の根拠・説明・考察
	調布・木島平交流クラブ新規会員の確保					人	20	16	80%	B	コロナ禍により、両市村の交流が出来ていなかったが、調布木島平交流クラブのツアーの再開や調布市内でのイベントへの参加など、コロナ禍前のような活動ができるようになってきた。また、調布木島平交流クラブ員向けの宿泊助成も好評で、調布市民の交流する機会を創出できている。
	オンラインを含めた交流の実施					団体	3	1	33%		

評価委員評価

公共性	B	総合評価 (妥当性)	B	コロナ禍前の活動ができるようになってきた。さらなる活動の拡大を期待する。
公平性	B			
有効性	B			
効率性	B			

令和4年度 事務事業評価

単位：千円

		第6次総合振興計画				款	2 総務費	課・係名		
基本目標		農を基軸とした交流の村づくり	施策	農村環境を活用した産業の創出		項	1 総務管理費	総務課		
						目	6 企画費	政策情報係		
事業通番	事業名	ふるさと応援団木島平会事業			予算額			決算額		
121606					当初予算額	増減額	予算現額			
	事業目的	村出身者の会員との交流や親睦を図るとともに、調布・木島平交流クラブや早稲田大学公認サークル「わせだいら」等村を応援する団体との連携を深め、ふるさとの活性化に資する活動を行う。			事業費	772	26	798	事業費	561
					財源内訳			財源内訳		
					国庫支出金		0		国庫支出金	
					県支出金		0		県支出金	
					地方債		0		地方債	
					その他	75	0	75	その他	70
					一般財源	697	26	723	一般財源	491
事業の内容及び成果・今後の課題										
<p>■事業内容及び成果</p> <p>近年は通常の活動に加え、調布・木島平交流クラブとの交流や早稲田大学わせだいらとの交流促進を行い、会の発展に向けた活動を行っている。○会費納入：131人 ○総会中止（役員会にて承認） ○新年親睦交流会中止 ○会報及び広報の発送（毎月）</p> <p>○20周年活動記念誌の発行</p> <p>■課題及び今後の取組</p> <p>会員の高齢化が最大の課題であり、役員と共に問題を認識している。役員の若返りを図っているが、更なる新規会員の勧誘や20～40歳代の若手の勧誘も含めて検討を進める。</p>										
指標	目的達成に向けた具体的な取り組み			単位	目標	実績	達成度	担当評価	評価の根拠・説明・考察	
	ふるさと応援団新規会員の確保			人	10	0	0%	B	新型コロナウイルス感染拡大のため、交流会を始めとした活動がほとんど行えない年となった。若者へのPR方法についても会議も行えず具体策が出づらい状況となった。	
評価委員評価										
公共性	B	総合評価 (妥当性)	C	ふるさと活性化に資する更なる活動を願いたい。						
公平性	B									
有効性	C									
効率性	C									

令和4年度 事務事業評価

単位：千円

		第6次総合振興計画		款	2 総務費	課・係名		
基本目標		人と地球にやさしい村づくり	施策	環境にやさしい未利用資源の利用促進		総務課		
				項	1 総務管理費	政策情報係		
				目	6 企画費			
事業通番 42017	事業名	ゼロカーボン推進事業		予算額			決算額	
	事業目的	木島平村地球温暖化対策実行計画に基づき二酸化炭素の排出量の削減を目指す。		当初予算額	増減額	予算現額	事業費	2,280
		事業費	5,689	▲ 1,554	4,135	事業費	2,280	
		財源内訳	国庫支出金	0		財源内訳	国庫支出金	
			県支出金	225	0		県支出金	150
			地方債		0		地方債	
			その他	5,000	▲ 3,000	2,000	その他	2,000
			一般財源	464	1,446	1,910	一般財源	130
事業の内容及び成果・今後の課題								
■ 事業内容及び成果								
内容	事業費(円)	内容・成果		今後の課題				
ゼロカーボンイベントの開催【政策情報係】	43,492	10月29日(土) ※7月23日実施予定であったがコロナのため延期 講演：家庭でできるエコ活動 体験：いろんな発電を体験して遊んでみよう 参加者16人(中学生以下6人) ポスター印刷費14,431円、イベント消耗品29,061円		住民に興味を持ってもらえる内容の検討。 子どもが参加したくなる、楽しめるイベントの検討。				
公共施設への太陽光発電設備設置のための事前調査【政策情報係】	484,000	公共施設10施設を調査。 各施設の概算施工費、年間予定発電量等を算出し、次年度から随時、公共施設へ設置していく。		財源の確保が課題。現状は避難施設等に指定されている施設が対象の補助金を活用予定であることから、避難施設外は対象にならない。				
太陽光発電施設設置補助金【政策情報係】	0	実績0件		住民の太陽光発電に対する意識啓発が必要。				
会議資料のペーパーレス化【政策情報係】	275,000	オンラインで会議資料を共有できるシステムを導入し、一部の業務についてペーパーレス化を図った。		システムの積極的な活用				

啓発チラシの印刷 【政策情報係】	8,802	広報6月に折込を実施。 印刷費4,402円 広報折込料4,400円	定期的な村民への周知の実施。
薪ストーブ購入補助金 【農林係】	427,400	化石燃料の使用低減と間伐材の有効利用を図るため、薪ストーブ本体の購入経費に対し、補助をした。 (1/2以内、限度額100,000円) 【対象者】 5人 【補助金額】 427,400円	薪ストーブ使用によって削減される温室効果ガスや利用する薪（木材）の炭素貯蔵量を把握することで効果を実証することも必要。
ペレットストーブ購入補助金 【農林係】	200,000	県産木材利用促進のため、ペレットストーブの購入及び設置に係る経費に対し、補助をした。 (10/10以内、限度額100,000円) 【対象者】 2人 【補助金額】 200,000円（内県補助150,000円） 【ペレット使用量】 1,800kg/年	薪ストーブの方が需要がある傾向のため、ペレットストーブのメリットを整理し、PRすることで事業の有効性を高める。また、県事業の枠も少ないことから森林環境譲与税を活用した村単独の補助事業化の検討も必要。
農業生分解性マルチ購入補助 【農林係】	288,244	環境負荷低減農業を推進するため、生分解性マルチの購入経費に対し、補助をした。 (1/4以内) 【対象者】 21人 【補助金額】 288,244円 【使用面積】 0.95m×200m×213本=40,470㎡	通常のマルチと違って自然分解されることから廃棄処理量を減らすことができ、環境負荷の低減につながる。また、作業の省力化にもつながり経営規模の拡大や農業所得の向上が図られる。 ただ、通常マルチよりも高価であるため、安定した利用や利用者の増加には引き続き、補助が必要。 (畑作農家支援策として)
木島平村住宅リフォーム協議会補助金 【農村整備係】	500,000	木島平村住宅リフォーム推進協議会に補助金を交付。 住宅の断熱化リフォームの工事費の1/5を補助（上限100千円） 実績：5件 ・浴室脱衣室改修工事（補助金：100,000円） ・浴室改修工事（補助金：100,000円） ・和室内窓設置工事（補助金：100,000円） ・寝室断熱リフォーム工事（補助金：100,000円） ・居間、座敷内窓設置工事（補助金：100,000円）	複層ガラスへの交換や、内窓の設置により断熱化を図るもの。近年の新築住宅はほとんどが要件を満たしており、これからはターゲットをしぼった周知も必要。
議会資料ペーパーレス化 【議会事務局】	53,350	情報共有グループウェアを活用し、従来紙媒体で発行していた会議等開催通知、情報伝達、及び、簡易な資料等についてペーパーレス化を図った。	議会資料についてもペーパーレス化を検討していきたい。
合計	2,280,288		

■課題及び今後の取組

進捗管理に関して、村で村内の数値等を計算することが困難であり、国からの情報にもタイムラグがあることから、実績値の反映がしづらい。

目的達成に向けた具体的な取り組み						単位	目標	実績	達成度	担当評価	評価の根拠・説明・考察
指 標	太陽光発電施設設置補助利用者数【政策情報係】					件	5	0	0%	B	<p>【政策情報係：C】 住民への地球温暖化に対する意識醸成が十分ではない。また、雪国での太陽光発電に対する意識改革が必要であることから、周知イベント等を更に実施していく必要がある。</p> <p>【農林係：A】 化石燃料の使用削減と自然分解資材の使用による環境負荷の低減に繋がった。今後は温室効果ガスの影響や木材の炭素貯蔵量を把握することで効果を実証することが必要。</p> <p>【農村整備係：A】 複層ガラスへの交換や、内窓の設置により断熱化を図っている。村単独の補助事業でほかの県や国の補助事業よりも制度がわかりやすい。通常リフォームと併せて周知することで認知度も上がり、住宅の断熱化が進み、ゼロカーボン対策が推進する。</p> <p>【議会事務局】 ペーパーレスについて、金額的な評価は難しいが、グループウェアを使用することで、双方向の情報共有及び確認が可能となった。</p>
	薪ストーブ購入補助金【農林係】					台	5	5	100%		
	ペレットストーブ購入補助金【農林係】					台	3	2	67%		
	生分解性マルチ購入補助金【農林係】					本	55	213	387%		
	住宅の断熱化リフォーム等補助金【農村整備係】					件	5	5	100%		
評価委員評価											
公共性	B	総合評価 (妥当性)	B								
公平性	B										
有効性	B										
効率性	B										

令和4年度 事務事業評価

単位：千円

		第6次総合振興計画			款	2 総務費	課・係名			
基本目標		計画に記載なし	施策		項	1 総務管理費	総務課			
					目	9 広報広聴費	政策情報係			
事業通番 121802	事業名	情報発信事業			予算額			決算額		
	事業目的	村からの情報発信を図る ○村公式ウェブサイトを更新し、より分かりやすく使いやすいものとする。 ○コロナ禍において、移住・定住・観光・企業誘致などを促進・活性化するためのシティープロモーションが求められているため、新しい生活様式に則した村の紹介動画を作成した。			事業費	4,850	814	5,664	事業費	5,547
					当初予算額	増減額	予算現額	国庫支出金		
								県支出金	880	
								地方債		
								その他	32	
					一般財源	4,818	▲ 66	4,752	一般財源	4,635
事業の内容及び成果・今後の課題										
内容	事業費(円)	内容・成果			今後の課題					
ライブカメラ活用事業	82,500	ウェブサイトを確認できるウェブカメラの管理に努めた。			現在、スキー場ゲレンデと庚の移住体験住宅にライブカメラを設置している。ウェブカメラを設置できる場所は限られるが、費用をかけずもっと村の景色が魅力的に見える部分に移設するなど検討したい。					
村公式ウェブサイト管理運営事業	3,779,600	村公式ウェブサイトの保守とともに、ウェブサイト研修会の講師について委託を行った。また、誰からも見やすいウェブサイトとなるよう、リニューアルを行った。 【保守経費】 790,900円 【リニューアル経費】 2,970,000円 【ウェブサイト研修】 18,700円			リニューアルしたウェブサイトにおいても、より魅力的で見やすいウェブサイトとなるよう改善を重ねる。					
村公式LINE導入事業	584,600	村の情報発信をより便利に受け取りやすくするため、LINEを活用する。			令和4年度末時点で1,400人ほどの登録があるが、さらなる周知を行い登録人数を増やす。					
木島平村PR動画制作	1,100,000	木島平村PR動画を制作した。(1分・3分・10分バージョン) 県の元気づくり支援金事業を活用した。(4/5補助)								
合計	5,546,700									

指標	目的達成に向けた具体的な取り組み					単位	目標	実績	達成度	担当評価	評価の根拠・説明・考察
	村公式ウェブサイトの訪問総ユーザ数					%	120	100	83%	B	トップページ訪問総ユーザ数はR4…55,670人、R3…55,893人となった。3月にウェブサイトリニューアルを行ったが、今後も見やすいウェブサイトへの改善を図っていく。アプリについてはLINEを導入し、情報の発信をより行いやすくした。
	SNSを活用した情報発信の検討と実施					アプリ	1	1	100%		

評価委員評価

公共性	B	総合評価 (妥当性)	C	情報発信の方法及び内容についてさらなる改善が必要。 あらゆる機会を捉えて機動的な情報発信を望む。
公平性	B			
有効性	C			
効率性	C			

令和4年度 事務事業評価

単位：千円

		第6次総合振興計画			款	2 総務費	課・係名																					
基本目標		計画に記載なし	施策		項	1 総務管理費	総務課																					
					目	9 広報広聴費	政策情報係																					
事業通番	事業名	広報広聴事業			予算額			決算額																				
121803					当初予算額	増減額	予算現額																					
事業目的	広報誌による住民への行政施策などの情報発信と、住民意見の反映	事業費		1,835	▲ 56	1,779	事業費	1,478																				
		財源内訳	国庫支出金			0		国庫支出金																				
			県支出金			0		県支出金																				
			地方債			0		地方債																				
			その他	189		0	189	その他	272																			
			一般財源	1,646		▲ 56	1,590	一般財源	1,206																			
事業の内容及び成果・今後の課題																												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>内容</th> <th>事業費(円)</th> <th>内容・成果</th> <th>今後の課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広報誌作成事業</td> <td>1,275,422</td> <td>月一回発行の広報誌にて行政情報等の発信に努めた。</td> <td>魅力的な広報誌になるよう他の広報誌を参考にし、日本広報協会による研修に参加する。</td> </tr> <tr> <td>村特製年賀はがき作成事業</td> <td>182,800</td> <td>村のPRのため、村特製年賀はがきを作成し販売した。(2500枚)</td> <td>年賀はがきの需要が年々落ち込み、村のPR方法として今後も続けるか検討が必要。</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>19,293</td> <td>業務に必要な消耗品を購入した。(無線LAN子機、カメラ用カバン、VGAケーブル、ブルーレイディスクなど)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>1,477,515</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>									内容	事業費(円)	内容・成果	今後の課題	広報誌作成事業	1,275,422	月一回発行の広報誌にて行政情報等の発信に努めた。	魅力的な広報誌になるよう他の広報誌を参考にし、日本広報協会による研修に参加する。	村特製年賀はがき作成事業	182,800	村のPRのため、村特製年賀はがきを作成し販売した。(2500枚)	年賀はがきの需要が年々落ち込み、村のPR方法として今後も続けるか検討が必要。	その他	19,293	業務に必要な消耗品を購入した。(無線LAN子機、カメラ用カバン、VGAケーブル、ブルーレイディスクなど)		合計	1,477,515		
内容	事業費(円)	内容・成果	今後の課題																									
広報誌作成事業	1,275,422	月一回発行の広報誌にて行政情報等の発信に努めた。	魅力的な広報誌になるよう他の広報誌を参考にし、日本広報協会による研修に参加する。																									
村特製年賀はがき作成事業	182,800	村のPRのため、村特製年賀はがきを作成し販売した。(2500枚)	年賀はがきの需要が年々落ち込み、村のPR方法として今後も続けるか検討が必要。																									
その他	19,293	業務に必要な消耗品を購入した。(無線LAN子機、カメラ用カバン、VGAケーブル、ブルーレイディスクなど)																										
合計	1,477,515																											

指標	目的達成に向けた具体的な取り組み					単位	目標	実績	達成度	担当評価	評価の根拠・説明・考察
	広報誌の発行					回	12	12	100%	B	地区づくり懇談会について要望調査を行ったが、新型コロナの影響により開催は西町のみとなった。
	地区づくり懇談会の実施					地区	10	1	10%		
評価委員評価											
公共性	B	総合評価 (妥当性)	B	村特製年賀はがきの作成を続けるか検討が必要と考える。							
公平性	B										
有効性	B										
効率性	B										